



## 議 題

報道機関 各位

記者発表資料

平成28年12月19日（月）

問い合わせ先：市長公室広聴課

担当：松田・豊田・安田

電話：829-1931

内線：2153

## 平成28年度「さいたま市民意識調査」調査結果をお知らせします！

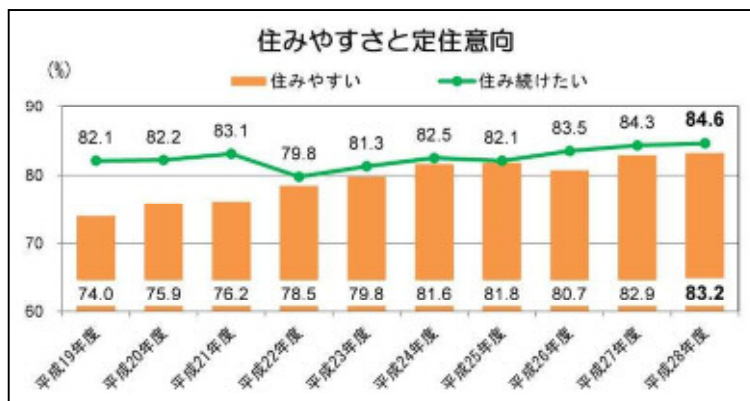
さいたま市では、広聴活動の一環として、施策に対する市民の意向等を把握し、その調査結果を今後の施策や事業の推進に反映することを目的として、市民意識調査を平成19年度から毎年実施しています。

このたび、平成28年度「さいたま市民意識調査」の調査結果をまとめ、報告書を作成しましたのでお知らせします。

## 1 調査結果（抜粋）

（1）住みやすい人、住み続けたい人は、ともに8割超で、増加基調が続く。

今の地域が住みやすいと思う人（「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」の合計）は83.2%、住み続けたい人（「ずっと住み続けたい」+「当分の間住み続けたい」の合計）は84.6%と、ともに8割を超える高い水準で推移しています。

（2）さいたま市のイメージは、「買い物など生活に便利」「交通の利便性が高い」。

さいたま市のイメージは、「買い物など生活に便利」と「交通の利便性が高い」が、在住者、在勤者ともに約半数を占めています。一方、「居住・生活環境がよい」や「スポーツが盛ん」などは、在住者と在勤者でイメージに差がみられました。

### (3) 今後力を入れて取り組んで欲しい事業は、「高齢者福祉の充実」。

事業分野別のニーズでは、「高齢者福祉の充実」(40.0%)が最も多く、次いで「子育て支援の充実」(33.5%)、「道路の整備／鉄道・バス輸送サービスの充実」(29.3%)と続いています。上位3項目のニーズは、いずれも増加しています。

## 2 調査のあらまし等

調査対象年齢を今年度から2歳引き下げ、18歳以上としました。

### <調査のあらまし>

	在住者意識調査	在勤者意識調査
調査地域	さいたま市全域	さいたま市全域の事業所
調査対象	さいたま市在住の満18歳以上の男女	さいたま市外からさいたま市内へ通勤する満18歳以上の男女
調査対象数	5,000人	2,000人
抽出法	住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出	市内の事業所を無作為に抽出し、事業所を通じて個人への調査を依頼
調査方法	郵送配布・郵送回収法	
調査期間	平成28年6月2日～6月18日	
回収結果	有効回収数 2,417	有効回収数 629

### <調査項目>

在住者意識調査	在勤者意識調査
① 地域での生活 ② 地域のイメージ ③ さいたま市のイメージ ④ 市政との関わり ⑤ 市政 ⑥ 今の地域を選んだ理由	① さいたま市のイメージ ② 市内での活動

## 3 配置場所

「調査報告書」は、各区情報公開コーナー・図書館に閲覧用として配置します。  
また、市ホームページでもダウンロードできます。

(パソコン用 <http://www.city.saitama.jp/006/002/004/p039044.html>)

# 平成28年度 さいたま市民意識調査 (概要版)

## <調査項目>

在住者意識調査		在勤者意識調査
①地域での生活	④市政との関わり	①さいたま市のイメージ
②地域のイメージ	⑤市政	②市内での活動
③さいたま市のイメージ	⑥今の地域を選んだ理由	

## <調査のあらまし>

	在住者意識調査	在勤者意識調査
調査地域	さいたま市全域	さいたま市全域の事業所
調査対象	さいたま市在住の満18歳以上の男女	さいたま市外からさいたま市内に通勤する満18歳以上の男女
調査対象数	5,000人	2,000人
抽出法	住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出	市内の事業所を無作為に抽出し、事業所を通じて個人への調査を依頼
調査方法	郵送配布・郵送回収法	
調査期間	平成28年6月2日～6月18日	
回収結果	有効回収数 2,417	有効回収数 629

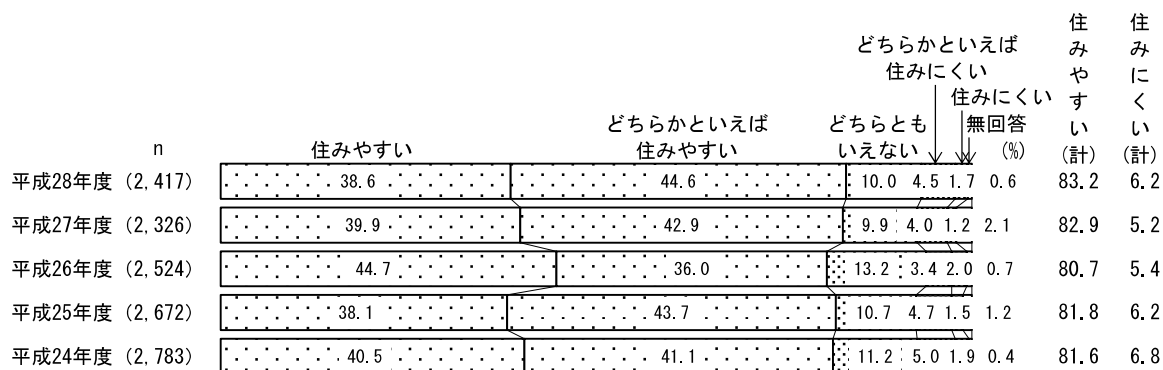
## <概要版の見方>

- 図中の「n」は、各設問の回答者数を示します。
- 調査結果の比率は、nを基数として百分率の小数第2位を四捨五入して算出しました。そのため、すべての比率を合計したときに100.0%にならないなど、各項目の比率と、その合計が一致しないことがあります。
- 図中で、在住者、在勤者比較をしている場合は、在住者の順位を基準にしています。
- 図や文章中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化しています。

## ★さいたま市は「住みやすいまち」ですか。

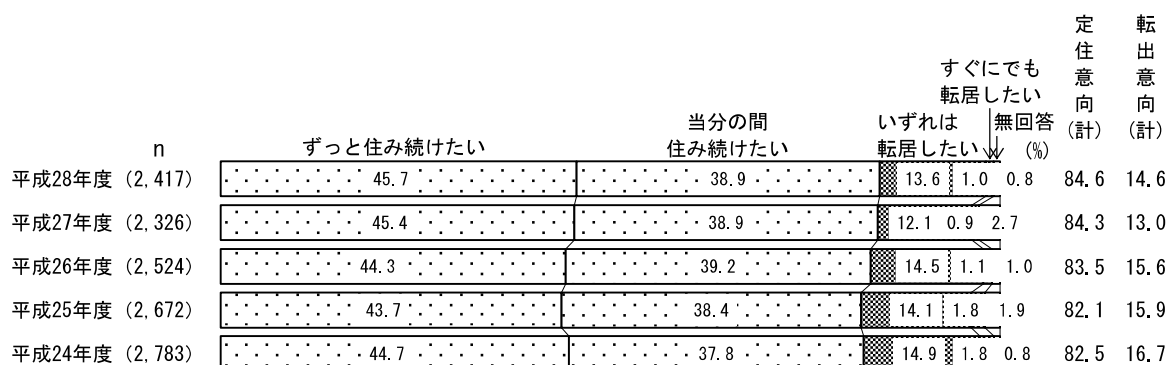
### ■住みやすい人は83.2%【在住者調査】

在住者が感じる地域の住み心地は、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい(計)』が83.2%と、8割以上の高い水準で推移している。



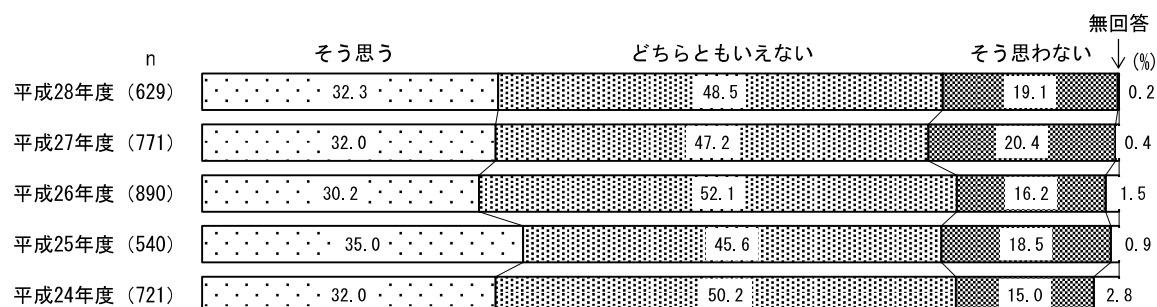
### ■住み続けたい人は84.6%【在住者調査】

今の地域に「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」を合わせた在住者の『定住意向(計)』は84.6%と、8割以上の高い水準で推移している。



### ■住んでみたい人は32.3%【在勤者調査】

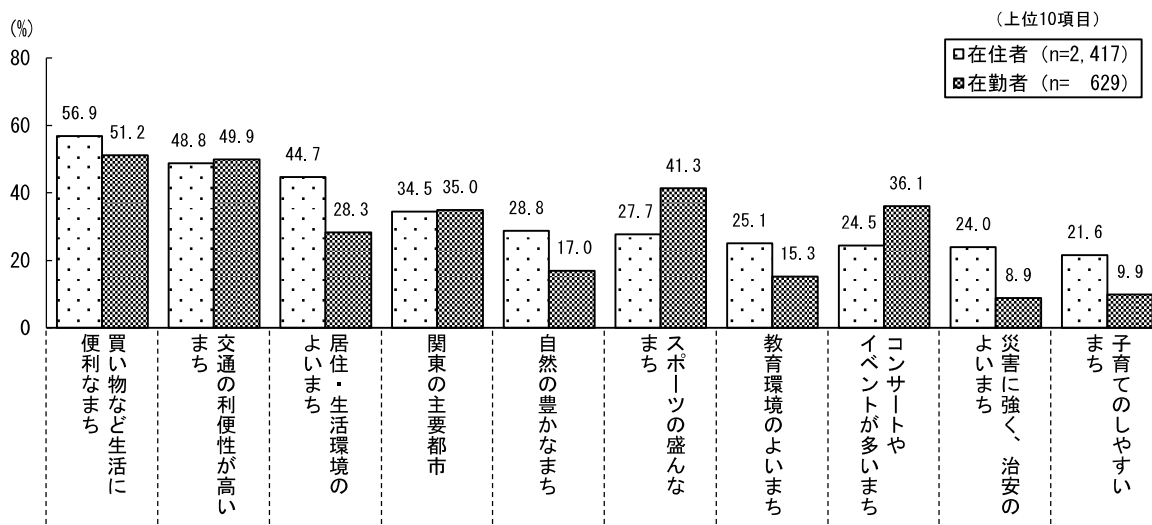
在勤者に、さいたま市は住んでみたくなるような都市だと思うかを聞いたところ、「そう思う」は32.3%と、3割台で推移している。



## ★さいたま市にどのようなイメージを持っていますか。

### ■在住者、在勤者とも、半数前後が「買い物など生活に便利なまち」、「交通の利便性が高いまち」と評価

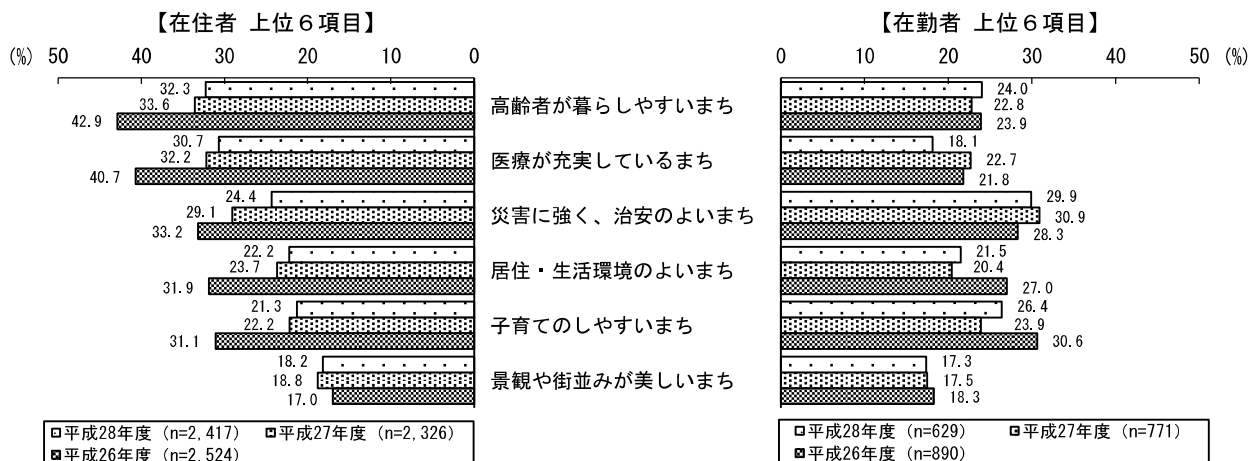
さいたま市のイメージについて聞いたところ、在住者、在勤者とも「買い物など生活に便利なまち」と「交通の利便性が高いまち」が、半数前後を占めた。また、「スポーツの盛んなまち」と「コンサートやイベントが多いまち」は、在勤者が在住者を大きく上回り、「居住・生活環境のよいまち」、「災害に強く、治安のよいまち」などは、在住者が在勤者を大きく上回った。



## ★さいたま市が、今後どのようになればよいですか。

### ■在住者は「高齢者が暮らしやすいまち」、在勤者は「災害に強く、治安のよいまち」が1位

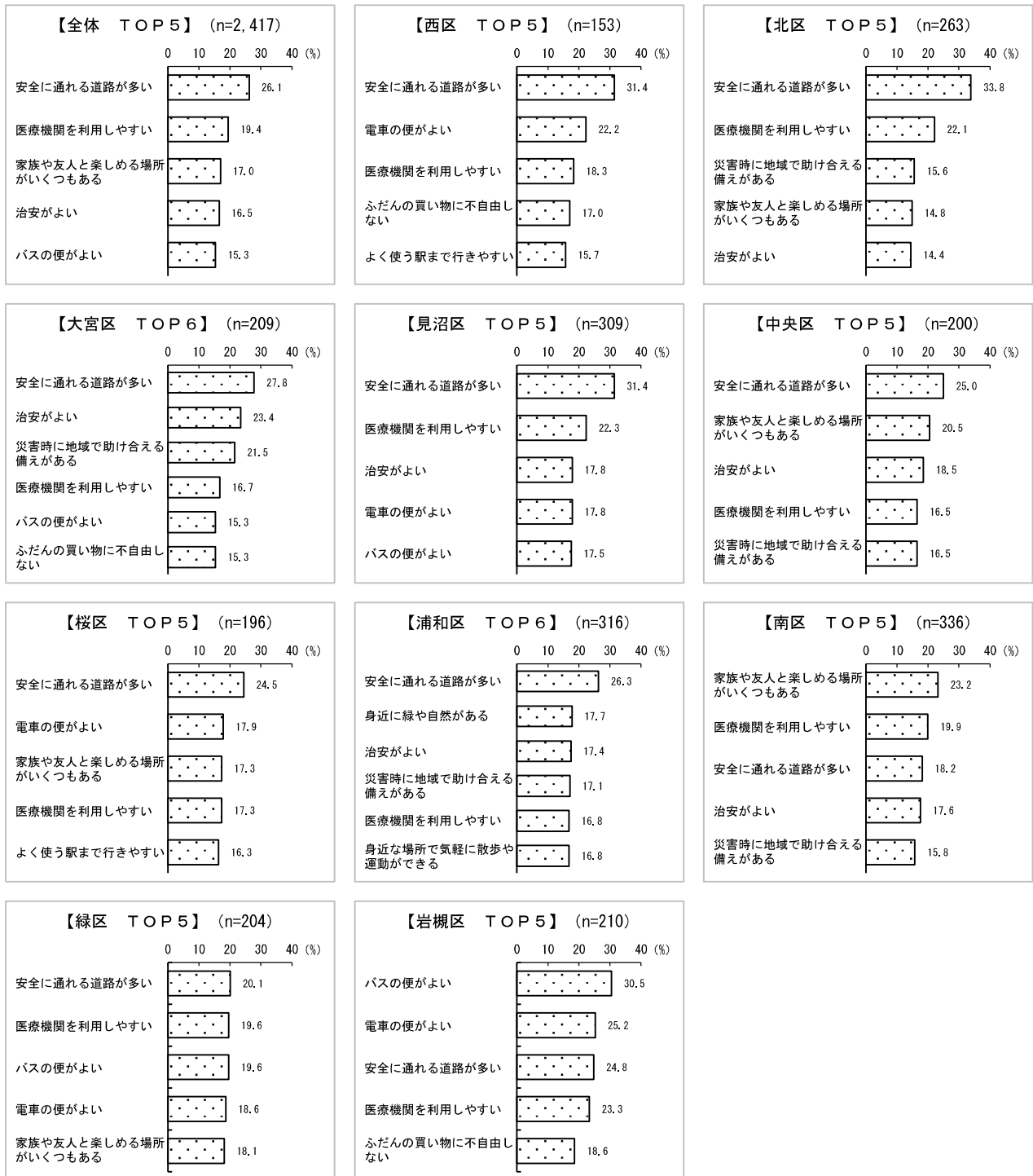
さいたま市の今後の発展の方向性について聞いたところ、在住者、在勤者とも順位に差はあるものの、上位6項目は共通した。その中で、在住者は「高齢者が暮らしやすいまち」が、在勤者は「災害に強く、治安のよいまち」が、それぞれ1位となった。



# ★お住まいの「地域」が、今後どのようなになればよいですか。

## ■「安全に通れる道路が多い」が、10区中8区で1位

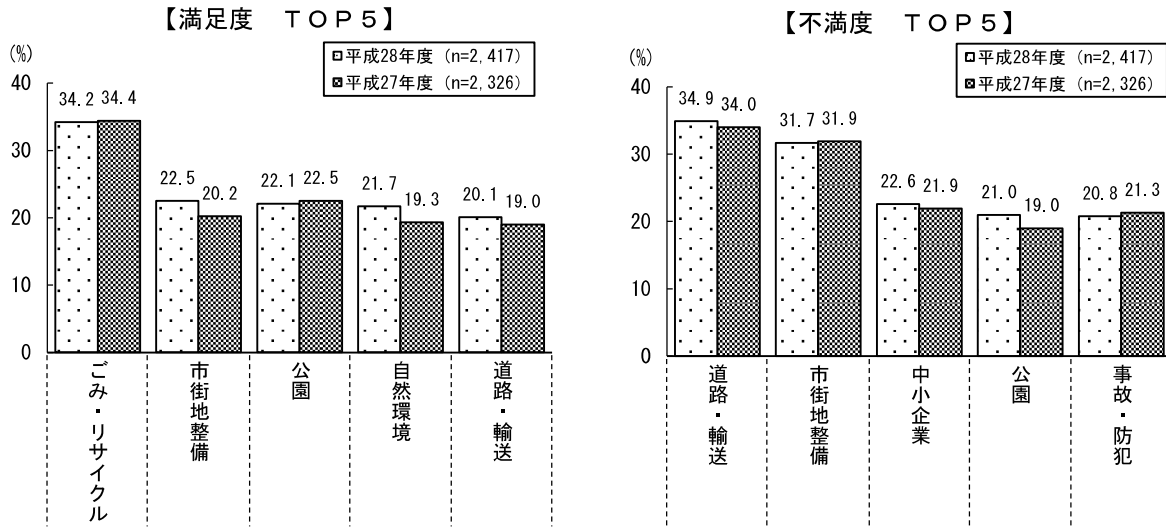
お住まいの「地域」の発展の方向性を3つまで聞いたところ、「安全に通れる道路が多い」が、10区中8区で1位となり、残る南区と岩槻区でも、ともに3位に入った。また、西・見沼・桜・緑・岩槻区（市内を南北に走るJR沿線以外の区）では「電車の便がよい」が、その他の区では「災害時に地域で助け合える備えがある」が、それぞれTOP5に入った。



## ★「さいたま市」が行っている施策や事業の満足度、不満度TOP5

### ■満足度1位は「ごみ・リサイクル」、不満度1位は「道路・輸送」

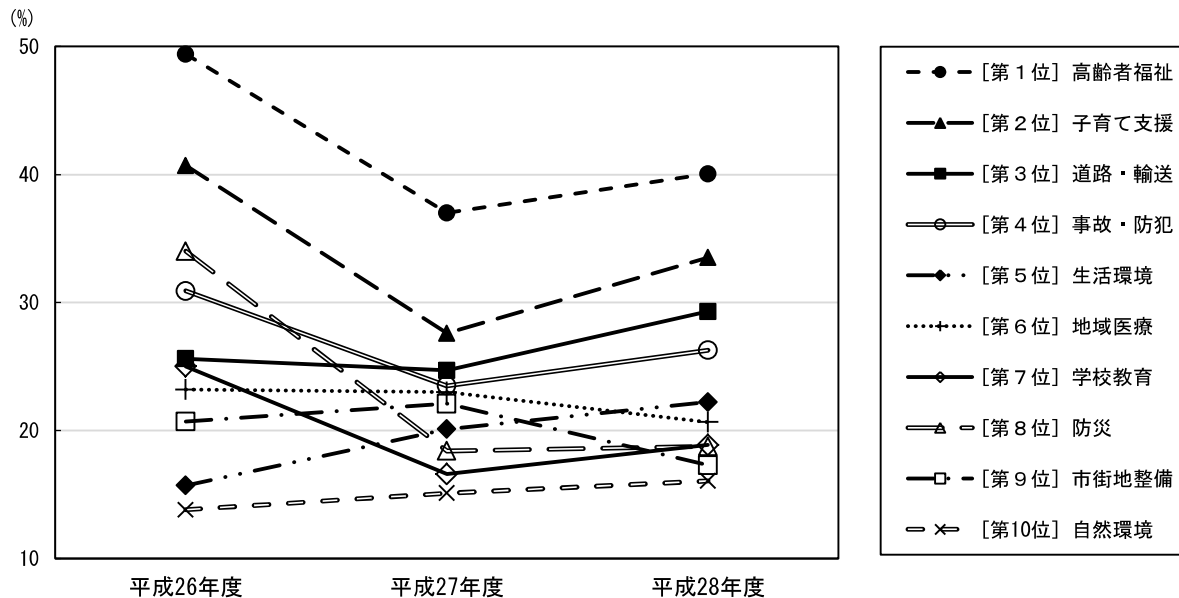
各施策や事業の現状の満足度を聞いたところ、満足度は、「ごみ・リサイクル」(34.2%)が、最も高い。一方、不満度は、「道路・輸送」(34.9%)、「市街地整備」(31.7%)の2項目が3割以上と高い。



## ★今後、特に重視する施策や事業TOP10

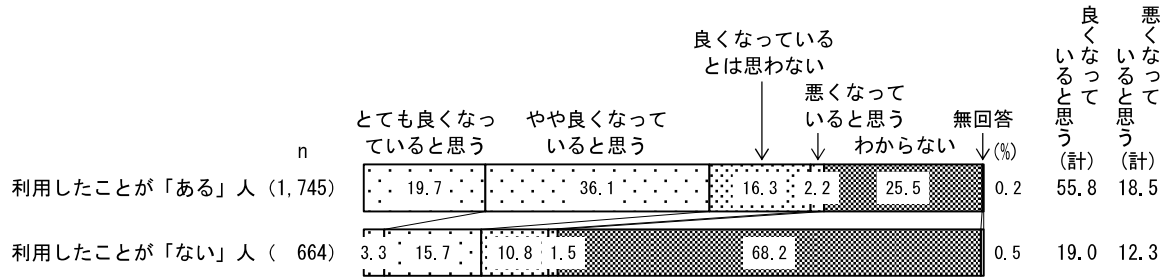
### ■「高齢者福祉」が今年度も1位

今後、特に重視する施策や事業を5つまで聞いたところ、「高齢者福祉」(40.0%)が最も多く、次いで「子育て支援」(33.5%)、「道路・輸送」(29.3%)などが続いた。上位5項目と「学校教育」が昨年度からやや増加する一方、「市街地整備」と「地域医療」は、やや減少した。

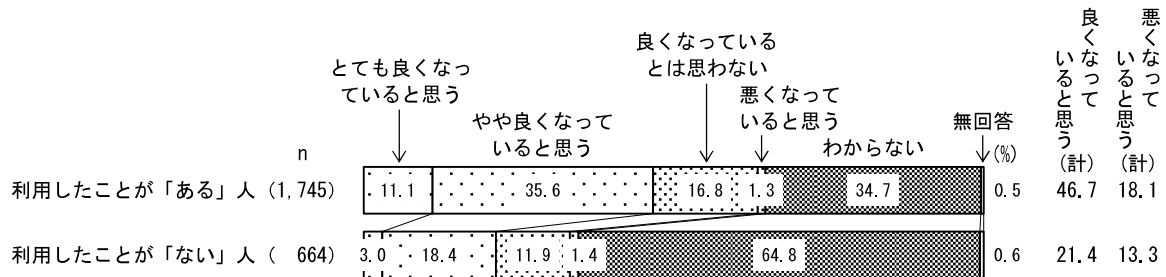


# ★市役所の利用実態別「市職員のイメージ」及び「市民サービスの評価」

## ■市職員のイメージ



## ■市民サービスの評価

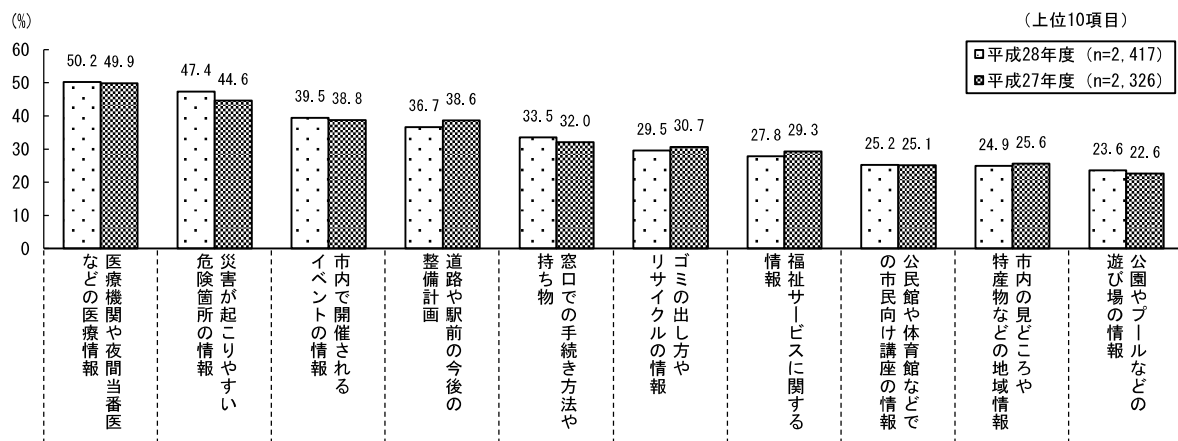


この1年以内で、市・区役所を利用したり、電話問い合わせを利用したりしたことが「ある」人の半数前後が、市職員のイメージ及び市民サービスが『良くなっている(計)』と評価した。一方、利用したことが「ない」人は、両項目とも「わからない」が、6割以上を占めた。

# ★市役所からの情報で、特に知りたいものは何ですか。

## ■「医療機関や夜間当番などの医療情報」が約半数

市役所からの情報で特に知りたいものを聞いたところ、昨年度同様、「医療機関や夜間当番医などの医療情報」(50.2%)が約半数で最も多く、次いで「災害が起こりやすい危険箇所の情報」(47.4%)が続いた。



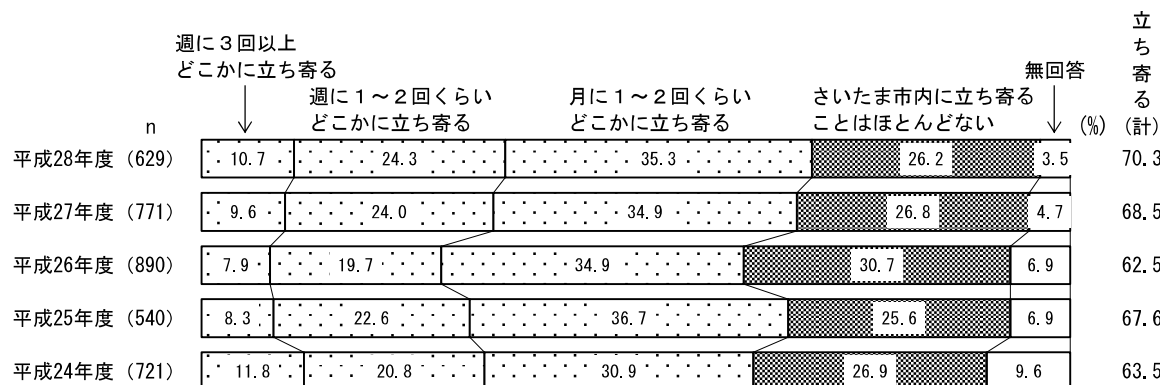


## ★在勤者に、仕事の後、さいたま市内での活動について聞いてみました。

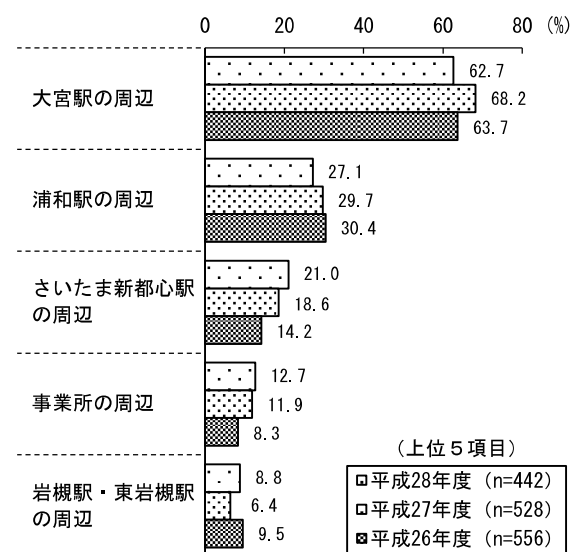
### ■さいたま市内に『立ち寄る（計）』人は、70.3%

仕事のあと、食事や買い物などでさいたま市内のどこかに立ち寄る頻度は、「週に3回以上どこかに立ち寄る」が10.7%、「週に1～2回くらいどこかに立ち寄る」が24.3%、「月に1～2回くらいどこかに立ち寄る」が35.3%で、3項目を合わせた『立ち寄る（計）』は70.3%にのぼった。

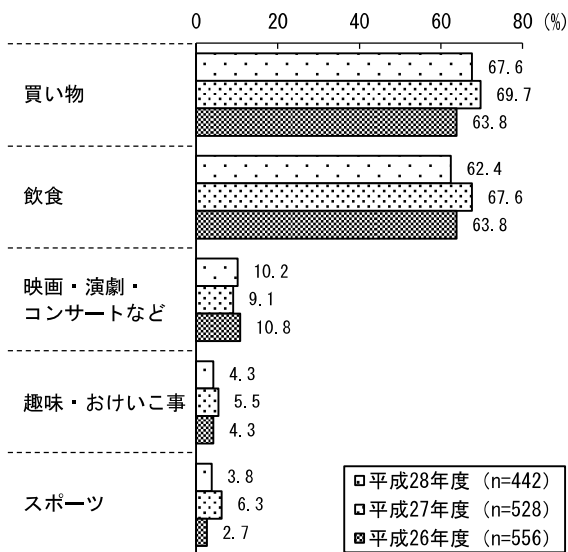
過去の調査と比較すると、さいたま市内に『立ち寄る（計）』は、おおむね増加傾向にある。



### ■立ち寄る場所は「大宮駅の周辺」



### ■立ち寄る目的は「買い物」「飲食」



在勤者が仕事のあと立ち寄る場所は「大宮駅の周辺」（62.7%）が突出して多く、次いで「浦和駅の周辺」（27.1%）、「さいたま新都心駅の周辺」（21.0%）が続いた。

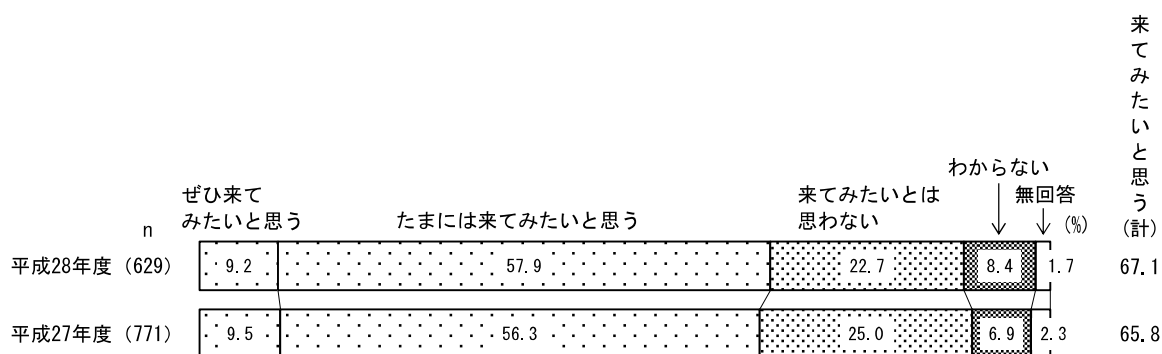
立ち寄る目的は、「買い物」（67.6%）、「飲食」（62.4%）が6割以上となり、他の項目は約1割以下にとどまった。

立ち寄る場所は、「さいたま新都心駅の周辺」が増加傾向にある。

**★在勤者に、仕事が休みの日に、さいたま市に来てみたいと思うか聞きました。**

**■さいたま市に『来てみたいと思う（計）』は、67.1%**

仕事が休みの日に、買い物や遊びでさいたま市に「ぜひ来てみたいと思う」（9.2%）と「たまには来てみたいと思う」（57.9%）を合わせた『来てみたいと思う（計）』（67.1%）は、7割近くにのぼった。



平成28年度 さいたま市民意識調査（概要版）

発行 さいたま市 市長公室 広聴課  
〒330-9588  
さいたま市浦和区常盤 6-4-4

調査実施 株式会社 物流科学研究所  
〒330-0052  
さいたま市浦和区本太 2-2-36  
SUN CREST 302

電話 048(829)1931（直通）

電話 048(887)3790

【このさいたま市民意識調査業務の委託に要する経費は、146万円です。】